

株式会社ジェイコム東京 大田局

放送番組審議会 議事録

令和元年度（2019年度）株式会社ジェイコム東京 大田局放送番組審議会は、2020年3月27日（金）ジェイコム東京 大田局にて開催された。

【放送番組審議会委員】

ご出席	ご欠席
千葉 茂 様	なし
桑田 健秀 様	
小山 君子 様	
山口 克己 様	
高野 正樹 様	

放送番組審議会の会長及び副会長の選出

会長 千葉 茂 様 副会長 桑田 健秀様

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告

【質疑応答・意見交換】 進行：千葉会長

■ 地域スポーツの取り上げ方について

委員

子どもたちが参加するスポーツ大会について、決勝を放送するばかりでなく、1回戦、2回戦の様子を取り上げてもらおうと、応援に行けない家族や遠方にいる祖父・祖母も喜ぶので、地域のスポーツ関係者としてお願いしたい。現在、スポーツを軸としたまちづくりを提唱するなかで「大田スポーツユナイテッドプロジェクト」を提案している。大田区の数々のトップチームを繋げて、区民全体が応援していけるような取り組みを行うので今後取り上げてほしい。

■ 高齢者と番組との関わりについて

委員

地域の高齢者は番組を楽しみにしている。大田区の良いところを発信していただき、今まで以上に力をいれたい。「わたしの大田百景」は、名前が映っていた方に連絡するとすごく喜ぶ。そういったちょっとした応援でビデオを制作した方のやる気に繋がると思う。また、「おみせれくしょん」を見た方が紹介店舗に行き「J:COM で見て、行ったら美味しかった」という感想を聞くこともあり、J:COM チャンネルの番組が浸透していると感じる。

■ 水害時の放送について

委員

昨年の台風襲来時、区ホームページがつながりづらい状況になった。今は改善したが、当時、とくに高齢者の方が J:COM の番組を見て河川の状況を知って安心したという声があった。

当時、どのような情報をどのくらいの頻度で流していたのか、災害時の情報発信について今後はどのような形で行うのか。

事業者

台風 19 号時には、事務所に常時 2 名を配置し大田区安心・安全メールをテレビの L 字で表示。あわせて番組ツイッターで安心・安全メールのほか、区内を流れる呑川・多摩川の増水状況、避難所の満空状況を独自で情報収集し、配信した。避難所の情報は途切れないように表示した。現在、J:COM の東京エリアでは、サービスエリア内にある河川カメラの映像を緊急時に放送できるかを検討している。

委員

大田区に特化した災害情報は J:COM にしかない。日本工学院の近くを流れる呑川の水位が高まっている様子を映像で見て、あらためて番組を見なければいけないと感じた。

■ 5G について

委員

最近話題の 5G を J:COM としてはどのように活用していくのか。

事業者

J:COM の約半分の資本を占める KDDI では 5G ならではの視点で、スポーツ、観劇、防犯防災、など、様々な研究を進めている。今後、新しい視点で取り組みを提案していくので期待していただきたい。

■ 地域防災力への貢献について

委員

消防団は地域防災力の核になる存在だが、全国的に団員の高齢化、担い手不足が課題になっているので、消防団の人をクローズアップしてもらえるとありがたい。消防団員を取り上げてもらうと、より親近感が持てるのではないと思う。

■ 大田区のイメージの伝え方について

委員

大田区はこれというものはないが、魅力的なものをたくさん持っている街。大田の「田」は、今は多様性の「多」と言える。どこに行っても活気のある街というイメージを伝えていけば良いと感じた。

以上